

大学病院入院から訪問看護に移行する患者に対して引き継がれる看護診断・介入・成果を NANDA-NIC-NOC を指標として明らかにする研究

1. 研究の対象

2017年4月1日～2019年3月31日に大阪大学医学部附属病院に入院され、訪問看護に移行された方

2. 研究目的・方法

本研究は訪問看護記録システム開発の基礎研究として、大学病院から訪問看護に移行する際にどのような看護ケアが引き継がれているのかを調査します。

【研究の期間】

調査データ該当期間：2017年4月1日～2019年3月31日

研究期間：2019年11月21日～2020年3月31日

3. 研究に用いる資料・情報の種類

年齢、性別、転院先の種類、病名、身体状態、継続が必要な医療ケア等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

(担当者) 大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学・大学院生 小玉 伽那 (kodama@obd.med.osaka-u.ac.jp)

研究責任者：大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学・教授 坂田 泰史